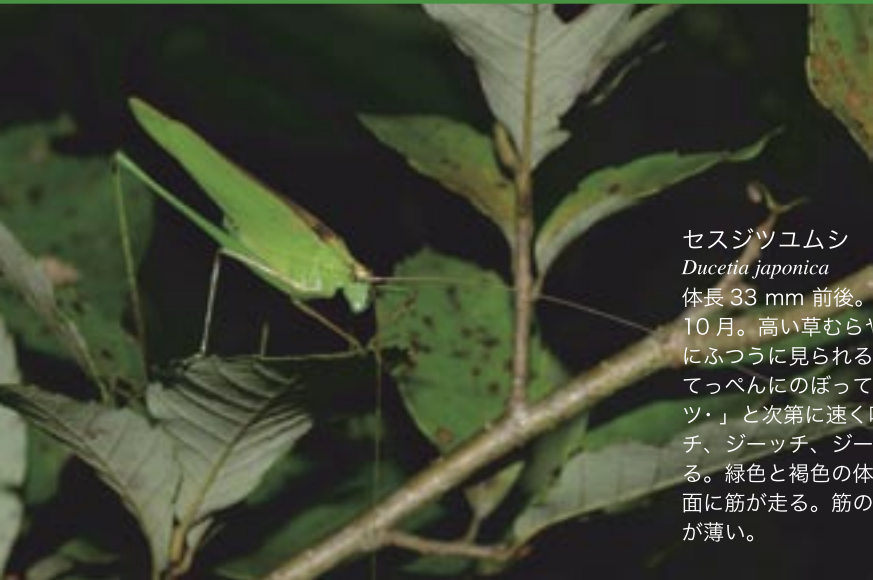


コオロギ類とは反対に、左翅の裏の脈を右翅でこすって発音します。また、コオロギ類よりも高音だったり高音が混じっていたり、人間の耳には聞こえにくいものが少なくありません。



セスジツコムシ
Ducetia japonica

体長 33 mm 前後。成虫期 8～10 月。高い草むらや林縁の葉上にふつうに見られる。夜に草のてっぺんにのぼって「ツ・ツ・ツ・ツ・」と次第に速く鳴き、「ジーッチ、ジーッチ、ジーッチ」で終わる。緑色と褐色の体色があり、背面に筋が走る。筋の色は♀のほうが薄い。

オナガササキリ
Conocephalus gladiatus

体長 25～52 mm。成虫期 8～10 月。背の高い草地にふつう。ササキリ類の鳴き声は高く小さいのであまり知られていないが、オナガササキリは「ジュリ、ジュリ、ジュリ」とあぜ道などでよく聞こえる。「オナガ」とは尾が長いという意味だが、♀の産卵管が体長ほどもあるところからきている。♂にはもちろん産卵管はない。



ヤブキリ

Tettigonia orientalis

体長 45～50 mm。6～8 月が成虫期。ほぼ全身緑色。大きさはキリギリスほどだが、はねには黒点がない。幼虫のうちは草の間にいるが、成長につれて樹上へ移動する。人里の灌木や樹上で「ジュリジュリジュリ」としばらく鳴き続ける。鳴き方にはいろいろあり、いくつかの種がまじっているかもしれない。



バッタ類は風間活動し、はねと後ろあしをこすって発音します。オスメスともに音を出すものもありますが、まれにしか発音しなかったり、まったく発音しない種もいます。

ヒロバネヒナバッタ

Megalaucobothrus latipennis

体長 23～30mm。成虫期 7～11 月。林のふちの草むらや落葉の上に見られる。最もよく鳴くバッタのひとつで、「ジー・チチチー」とセスジスコムシを思わせる音色で複雑に鳴く。ヒナバッタに似ているが、色があざやかで後ろはねが黒い。



クルマバッタモドキ

Oedleus infernalis

体長 31～45mm。成虫期 7～10 月。荒れ地やグラウンド、河川敷に多く、市街地でも見られる。クルマバッタ、トノサマバッタに近い種。トノサマバッタはよく鳴くが、クルマバッタモドキはまれにしか鳴かない。



シヨウリョウバッタ

Acrida cinerea

♂45～52mm、♀75～82mm。雌雄の差が激しく、♀は巨大昆虫だ。7～10 月が成虫期。田んぼの畦や農地など、草むらにごくふつう。オス成虫は飛ぶときに翅をと打ち鳴らすので、「キチキチバッタ」という愛称がある。体色は緑色が多いが、褐色までいろいろに入り混じる。



鳴く虫を大きく分けると、バッタ類とそれ以外に分けられ、バッタ類以外はキリギリス類とコオロギ類に分けられます。後者に属するケラ以外は後ろあしが長く発達していて、ピョンピョンとよく跳ねます。

コオロギ類

アンテナは髪の毛のように細長い
体は上下に平たい
メスの産卵管は、キリ状



ケラ



湿った土中にすみ、低い声
でビーと連続的に鳴く

キリギリス類

アンテナは髪の毛のように細長い
体は左右に平たい
メスの産卵管はナイフ状



バッタ類

アンテナは太短い
体は左右に平たい
メスにも産卵管はない



カマキリ類、ナナフシ類、ゴキブリ類などが鳴く虫に近い昆虫のグループ（「目」）です。後ろあしは発達していないので、はねることはなく、発音器官も耳もありません。

オオカマキリ

Tenodera aridifolia

70～95mm。大型のカマキリでセミも捕らえて食べる。鎌状になった前足はほとんど歩くのには使わない。「カマキリ」と聞くと、「鎌で切る」ことかと思ってしまうが、「鎌をもったキリギリス」からきたらしい。カマキリ類の一部ははねをこすって「シュツシュツ」と警戒音を出すことがある。



トビナナフシ

Micadina phlucaenoides

50mm内外。各種広葉樹の樹上にすんでいる。ナナフシ類はまったく翅が退化したものと、前翅は小さく退化しているが、ひらひらと滑空できる後ろばねをもつものがある。後ろばねの縁は体色と同じだが、飛ぶと鮮やかなピンク色が見える。

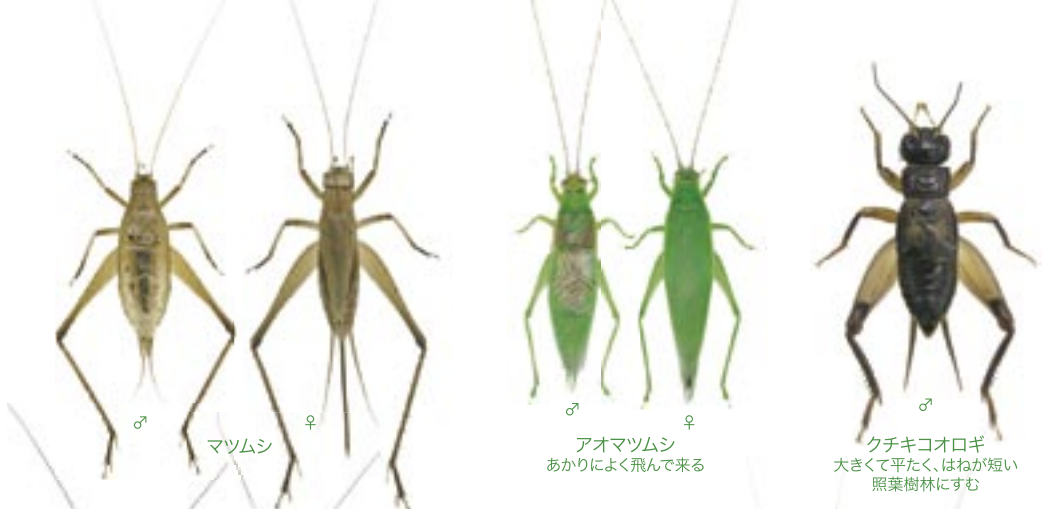


オオゴキブリ

Panesthia angustipennis

40mm内外。よく茂った森林の朽木の中にすんでいる。夏期には夜間灯火に飛来することもある。台所に出没するクロゴキブリとはイメージが違い、体は甲虫のようにかなり硬く、ずっしりと重厚な虫だ。

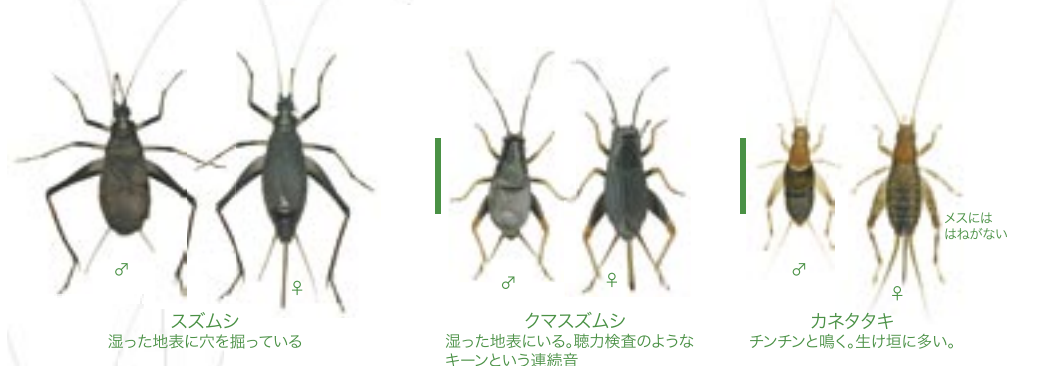




♂ ♀
マツムシ

♂ ♀
アオマツムシ
あかりによく飛んで来る

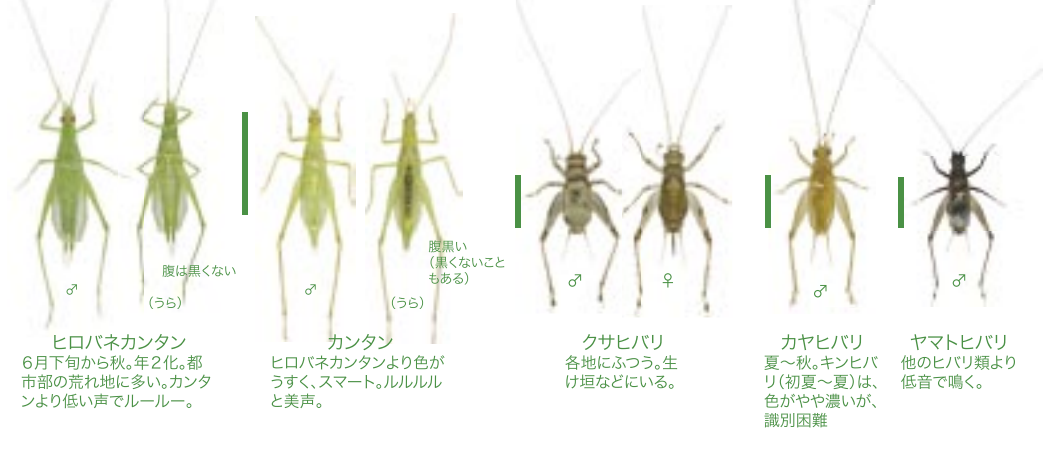
♂
クチキコオロギ
大きくて平たく、はねが短い
照葉樹林にすむ



♂ ♀
スズムシ
湿った地表に穴を掘っている

♂ ♀
クマスズムシ
湿った地表にいる。聴力検査のような
キーンという連続音

♂ ♀
カナタタキ
チンチンと鳴く。生け垣に多い。



♂ ♀ (うら)
ヒロバナカンタン
6月下旬から秋。年2化。都
市部の荒れ地に多い。カンタ
ンより低い声でルルルー。

♂ ♀ (うら)
カンタン
ヒロバナカンタンより色が
うすく、スマート。ルルルル
と美声。

♂ ♀
クサヒバリ
各地にふつう。生
け垣などにいる。

♂
カヤヒバリ
夏～秋。キンバ
リ(初夏～夏)は、
色がやや濃い、
識別困難

♂
ヤマトヒバリ
他のヒバリ類より
低音で鳴く。



♂ ♀
エンマコオロギ
大きい。

♂
ツツレサセコオロギ
コガタコオロギは小型で
初夏に、リッと一声。

♂
クチナガコオロギ
オスはキバが長く、メ
スは産卵管が短い。

♂
タンボコオロギ
初夏～秋。田んぼや湿
地で、ピッピッピッ
とせわしく鳴く。

♂
クマコオロギ
湿った草地。チリッ、
チリッ。

真っ黒で
足が黄色



♂
ヒメコオロギ

♀
オカメコオロギ類のメス
モリとハラは区別できない。

♂
はねの先が
とがる

♂
はねの先が
丸い

♂
色が黒い



エンマ

ツツレサセ

クチナガ

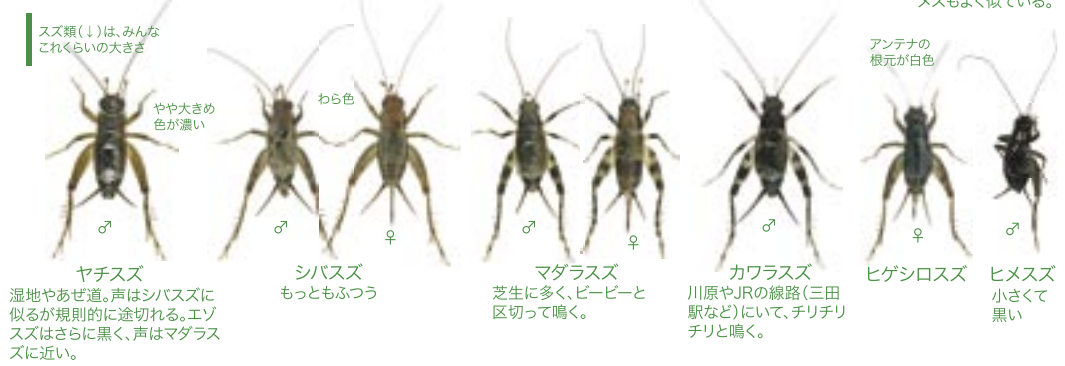
タンボ

クマ

オカメ♂

ミツカド♂

ミツカド♀
少し角張る。オカメの
メスもよく似ている。



♂
スズ類(↓)は、みんな
これくらいの大きさ

♂
やや大きめ
色が濃い

♂
わら色

♂
でっばりは少し

♂
強くでっばる

♀
アンテナの
根元が白色

♂
ヤチスズ
湿地やあぜ道。声はシバズに
似るが規則的に途切れる。エゾ
スズはさらに黒く、声はマダラス
ズに近い。

♂ ♀
シバズ
もっともふつう

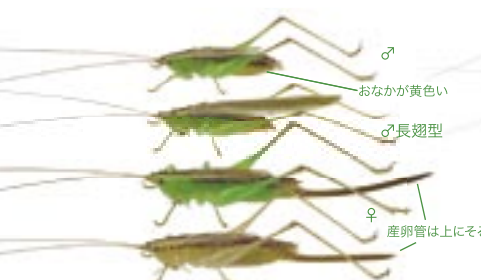
♂ ♀
マダラスズ
芝生に多く、ピーピーと
区切って鳴く。

♂
カワラスズ
川原やJRの線路(三田
駅など)において、チリチリ
と鳴く。

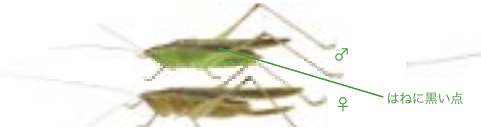
♀
ヒゲシロスズ
ヒメスズ
小さくて
黒い



オナガササキリ
背の高い草むらにふつう。



コバナササキリ
背の高い湿った草むらにいます。



ホシササキリ
背の低いかわいた草むらにやたら多い。鳴き声はかすか。



ウスイロササキリ
背の低い草むら。水田にもよくいる。シリシリ...



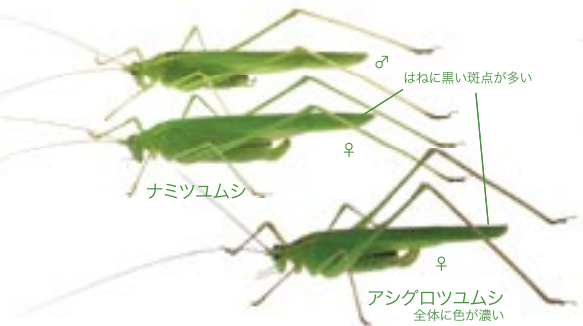
フタツトゲササキリ
竹林や植え込みにいる。鳴き声はかすかで、ジジジッ、ジジジッ。



ササキリ
林のふちや中にいる。ジジジジ...



セスジツユムシ
エソツユムシは、はねのはばが広く、山地にいる。



ナミツユムシ



ヤマクダマキモドキ
樹上において、夜間プチプチと鳴く。サトクダマキモドキは前あしが緑色。



ヒメクダマキモドキ
樹上にいる。瀬戸内海沿岸に多い。



クツムシ
緑色型もある。



ハヤシノウマオイ
ハタケノウマオイは鳴くテンポが速く、草原にいる。



カヤキリ
巨大。7、8月、ススキにいる。シブイロカヤキリモドキは茶色で小型、キバが黒く、初夏に見られる。



クビキリギリス
茶色型もある。ときにピンク色も。成虫越冬し、秋から春に見られる。桜の咲く頃から、ジーと連続音で鳴いている。



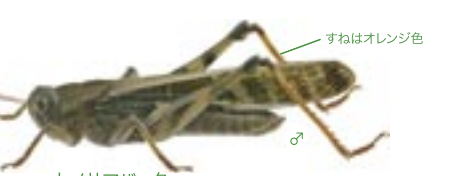
クサキリ
夏～秋。超音波のようにジーと連続音で鳴く。ヒメクサキリは標高の高いところにおいて、小型ではねの先がとがる。



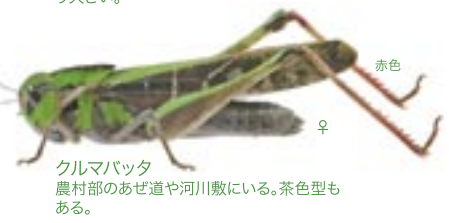
キリギリス
ヤブキリは同じような大きさで、背中に茶色のスジがある(46ページ写真参照)



ヒメギス
7、8月。湿った草地にふつう。シリシリと鳴く。コバナヒメギスははねが5mmくらいで、テリッと鳴く。



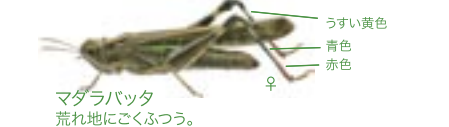
トノサマバッタ
緑色型もある。オスメスともにクルマバッタより大きい。



クルマバッタ
農村部のあぜ道や河川敷にいます。茶色型もある。



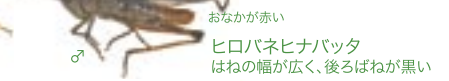
クルマバッタモドキ
上2種より小さい。緑色型は少ない。



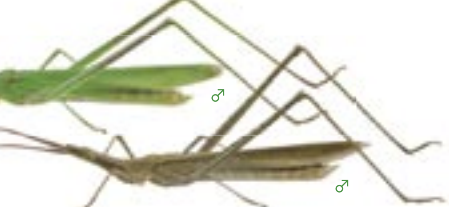
マダラバッタ
荒地地にごくふつう。



ヒナバッタ
林のふちが好き



ヒロバネヒナバッタ
はねの幅が広く、後ろはねが黒い



ショウリョウバッタ
緑と茶色がまざったものもある。メスは巨大。

このほか、鳴くバッタには、ナキイナゴ(全体に黄色)、ツマグロイナゴモドキ(黄色くてひざとはねの先が黒い)などがある。これらは夏に見られる。

ブチ図鑑 兵庫の身近な秋の鳴く虫
著者 大谷 剛・八木 剛
協力 林 成多(写真提供)
澤 七緒子(表紙デザイン)
発行日 平成十七年(2005年)十月一日
発行者 兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
電話 079-559-2001(代)
<http://hitohaku.jp>
印刷 ウニスガ印刷(株)
(文部科学省地域こども教室推進事業)

虫の声

あれ松虫が 鳴いている

ちんちろ ちんちろ ちんちろりん

あれ鈴虫も 鳴き出した

りんりんりんりん りいんりん

秋の夜長を 鳴き通す

ああおもしろい 虫のこえ

きりきりきりきり こおろぎや

がちやがちや がちやがちや くつわ虫

あとから馬おい おいついて

ちよんちよんちよんちよん すいっちよん

秋の夜長を 鳴き通す

ああおもしろい 虫のこえ

文部省唱歌

